

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かがやきキッズクラブ		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 10日		～ 2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33人	(回答者数) 24人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人に手厚い支援が出来る。	子ども自身が、いろいろな活動を通して自己選択・自己決定ができる事を、またその経験を積み重ねていけることを重要視し個別対応をしている。小学生は身体活動や創作活動、中学生は社会経験を意識した活動など年齢に応じた活動をしている。	個別支援会議にて、全スタッフで子どもの発達段階、状況、課題の情報共有をし、支援の方向性を一致させ、子ども一人一人の自立に向けた支援を引き続き行っていく。このような個別支援会議を毎回重ねていく事でスタッフのスキルを向上していく。
2	スタッフの学習意欲が高い。	子どもの個性・障がい特性の理解のための学習会などを多く開いている。	外部にもアンテナを広げ、研修会や学習会に積極的に参加する。
3	環境が整っている。	公共施設・福祉施設・公園などに恵まれた立地であり、常日頃から外出活動がしやすい。また、施設内のスペースは活動ごとに区切りやすくなっている。	外出先で地域の方たちとより多く関わりを持ち、子どもたちのことを知ってもらう。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもの交流が少ない。	児童館や公園などの社会資源を活用し、地域の子どもたちと少しづつ関わりを持つことが出来るようになってきたが、社会的ルールが身につけていない子どももいるため、トラブルになりそうなことがある。トラブルが起これないためにも子ども自身も力をつけつつ地域の方に特性を知ってもらう必要がある。	今年度のイベントに招待した合唱団やダンスチームの子どもたちと交流できる機会を作りたい。 地域の方々と交流する機会を設けていく。
2	家族に対してペアレントトレーニング等の研修は必要と感じているが、提供することまではできていない。	ペアレントトレーニングの研修を受けたスタッフがいない。	家庭支援のスキルアップが出来るようにスタッフがペアレントトレーニング等の研修を受けて行く。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	かがやきキッズクラブ		公表日	2026年 3月 16日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		指導室面積は充分にあります。天気の良い日は外で遊べる活動も取り入れています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		加配をして規定以上の配置数にしています。子どもによっては、マンツーマン対応をしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		室内は、個別の部屋が間仕切りにより分割できるようになっている部屋や安静にできる部屋、運動がしやすい部屋など使い分けできるように構造化されています。また、車椅子での移動ができるバリアフリーであると共に多目的トイレや廊下に手すりを設置しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		業務終了後必ず整理整頓、清掃、消毒を行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		クールダウンできる個別の部屋や個別で学習できる部屋を用意しています。	個別の部屋を先に使用されている場合、特性のある子どもに理解してもらうのに苦労する場合があります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		毎月全員参加のスタッフ会でヒヤリハットの報告、PDCAサイクルに基づいた確認をしています。週1回の個別支援会議等において、支援や方針を詳しく確認して業務改善を行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者向け評価表や保護者の意見を伺う機会を設ける等で意向等を把握し、その内容について業務改善を行っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		オープンに意見を出しやすい環境にしています。出た意見を周知し話し合い、業務改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	外部の第三者委員会の評価は受けていませんが、保護者向け評価表により外部評価をいただいております。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		全職員（パート含む）に対して、研修会（専門機関の講師を招いた研修・外部で行われている研修に参加・事業所内研修など）を積極的にこなしています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		公表しています。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		アセスメントや年2回以上のモニタリングなどでニーズを把握したうえで、子どもの課題について支援会議等で検討し、放課後等デイサービスの計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		毎週1回個別支援会議を行い、職員間で話し合い分析しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個々のサービス内容記録表の右上に記録のポイント（支援者が実施すること）を印刷し、記入のたびに見返せるようにしています。	計画を共有することはできていますが、支援の質を上げるための改善は、努力しています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		標準化されたアセスメントツールを使って適応行動の状況を把握し、保護者、本人、スタッフから日々の行動などの聞き取りをして確認をしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的	<input type="radio"/>		各家庭に寄り添った支援項目を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		月々でチームメンバーを決め、そのメンバーで立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		スタッフにアンケートをとりながら季節の行事や連日や月ごとの取り組みを計画し常にアップデートしています。また、子ども（個々）の発達・興味関心に応じた取り組みを行っています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		子どもの発達や課題に応じて、個別での活動と集団での活動を臨機応変に組み合わせで計画しています。	計画を明確化する余地はあります。個別活動しかできない子もいるため、段階をもって進めることが必要と考えています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		毎日の朝・昼礼等で確認をすることはもとより、内容や担当などをボードやラインで見える化しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		終了後に限らず職員同士で必ず打ち合わせをして気づいた点を共有しています。掲示板などを利用して情報を共有するよう努めています。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		担当した職員が毎回記録し、それを基に個別支援会議で、検証し改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、支援会議にて計画の見直しを行なっています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		ガイドラインの総則にある、自立支援・日常生活の充実・創作活動・地域交流等の基本活動を組み合わせた支援を行なっています。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育むための支援を行っているか。	○		選択肢で提案したり、言葉のない子に対してもカードで2者選択してもらうなどで自己決定しやすいような言葉かけをしています。	外出の計画を立てた時、それに参加するかしないかを選択できるようにしています。外出先での活動によっては選択肢が少なくなってしまうことがあります。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者と共に、必要に応じてその子どもの状況を知る者が参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		常に関係機関と連携し体制を整えています。その都度、スタッフ会等で報告し、情報共有しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の下校時間や行事予定の把握に努め、情報共有しています。トラブル発生時には迅速に学校や家庭との連携に努めています。	学校と保護者と事業所の情報共有がとても必要だと思います。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて発達支援センターや保育園等と連携して情報を共有しています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行先へこれまでの支援内容や留意事項等の情報を提供しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターや専門家と連携し、必要に応じて助言や研修を受けています。	スーパーバイズの助言研修は必要と感じています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		公園や児童館、市の公共施設等に出かけ、地域の子どもたちとふれあう機会を設けています。	地域のダンスチームや合唱団との交流も今後考えていきたいと思っています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加しています。	意見が反映されるよう働きかけが必要だと思います。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		アセスメントやモニタリング時以外でも、連絡帳等で状況を伝え合ったり、送迎の際に口頭で伝え合ったりするなど、常に共通理解できるよう努めています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		直接的なペアレント・トレーニングは実施できていませんが、信頼関係を作りながら一緒に子どもの課題を探り、支援を行っています。また、家族の参加できる研修会（専門家を招いた）を開いています。	ペアレント・トレーニングの必要性は感じています。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明をしています。変更などがあった時は、その都度説明をしています。	HPによる公開・掲示板を利用するなど周知方法を工夫したいと思います。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者へのモニタリングや子どもから意見を聞く場を設けるなど、意思尊重を重視しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者と時間調整を行い、面接をして説明をしています。	支援プログラムのねらいを、より明確に保護者へ提示していきたいです。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談はいつでも対応できるようにしています。また、必要に応じて専門機関と連携しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		作品展・クリスマス会を開催した際、保護者、兄弟児、祖父母などが参加され交流ができ、スライドショーを観てもらうなどで余話や弾み、活動や支援について知ってもらうことができました。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情解決第三者委員会を設けて契約時に説明をし、保護者の目に留まる場所に連絡先を掲示し、ご意見箱を設置しています。	苦情になる前に、子どもや保護者に寄り添い、思いや意見をキャッチしていきたいと思っています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		お便りを毎月配布し、活動内容や行事予定などをお知らせすると共に、HPにも活動を載せています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理を徹底し、職員の守秘義務を徹底しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもに関しては絵カード等で視覚支援もして意思疎通を行っています。配慮が必要な保護者の方に関しては状況や状態に応じて口頭・筆記・電話（ビデオ通話）・電子メール・手話通訳などで対応できるよう配慮しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ボランティアさんや実習生の受け入れをしています。作品展に地域の方を招待しています。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し、職員会等で資料を配布したり、館内に掲示し周知しています。保護者には、資料を配布しています。発生を想定した訓練を実施し、今年度は引き取り訓練も実施しました。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		防災訓練を定期的に行っています。長期休暇中に子どもと職員の合同訓練をしています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントツールを使い確認をしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からアセスメントをして、その子に応じて対応しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		マニュアルに基づき、研修・訓練を行なっています。事前に出かける先など下見を行い充分安全管理をしています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		毎月のお便りでお知らせすると共に、その都度、重要なお知らせを配布しています。	あらゆる機会に周知を図っていきたく思います。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット（掲示板で都度報告）事例を記録し、職員会議等でも、その都度共有して対応策を検討しています。	危機感を持って物事に対処していきます。今後もヒヤリハットの報告がなされるようにしていきたいです
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		子どもの支援の理解について講師を招く、配信される動画を観る、書物を読むなどで研修を行い深めています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		拘束が必要な場合は放課後等デイサービス計画に必ず記載する必要があることを、保護者にも十分に説明したうえで承諾を得ます。（現在、対象者はいません）		